

# 『サツマイモ・サトイモ大事典』刊行 ～生産現場がリアルにわかる栽培の百科～

のうさんぎょそんぶん かきょうかい  
(一社) 農山漁村文化協会編集局

## 20年ぶりの栽培事典

農文協は、この1月に『サツマイモ・サトイモ大事典』を発行した。農文協がサツマイモ、サトイモの栽培事典を発行するのは、2004年の『野菜園芸大百科第二版』以来、およそ20年ぶりとなる。2004年といえば、サツマイモでは焼きいもブームが始まったころ。ただの「焼きいも」が、行列をなして買い求めるものになり始めた時期である。その後、焼きいもブームは現在

まで続いており、青果用の消費は全体の半分近くを占めるほどになり、市場価格（1kg当たり）は2004年の165円から2024年の263円へと、20年で約1.6倍に上昇している（農林水産省統計部青果物卸売市場調査報告）。そのような状況の中で本書は発行された。

執筆陣は、国や県、大学の第一線の研究者や指導者、種苗会社、生産者などおよそ100名。サツマイモに加え、昔から輪作の組み合わせとして相性がよいとされているサトイモを合わせて、合計852ページの大著となった。

## 現場の技術課題に向けた実践書

本書は生産現場がリアルにわかる栽培の百科であることが最大の特徴である。本書の構成は、以下のようになっている。

\*\*\*\*\*  
カラー口絵

### <サツマイモ>

日本人とサツマイモ／サツマイモの起源と特性／生育のステージと生理、生態／サツマイモの品種生態と選択／サツマイモの機能性と利用／栽培の基礎理論／生育過程と基本技術／各地の作型と技術の特徴（関東・普通栽培；徳島・なると金時の砂地畑における栽培；南九州・マルチ早掘り栽培；南九州・デンプ



---

ン原料用多収栽培；沖縄・紅いも栽培；北海道・マルチ栽培；直播栽培）／障害と対策／当面する技術課題／精農家のサツマイモ栽培技術<サトイモ>

サトイモ＝植物としての特性／生育のステージと生理，生態／サトイモの品種生態と特性／生育過程と基本技術／障害と対策／精農家のサトイモ栽培技術

索引

\*\*\*\*\*

このように、サツマイモとサトイモの栽培の基礎から最新研究を収めた栽培百科となっている。サツマイモは焼きいもや干しいもなどの利用が多いため、食味や機能性成分、加工についての研究成果も掲載した。しかし、本書はいわゆる試験研究の報告書ではなく、「当面する技術課題」や「精農家の栽培技術」というコーナーを設けているように、現場で起こる問題や課題の解決に向けて研究者、指導者が参加したリアルな実践書となっている。以下に、その一例を具体的に紹介したい。

## 夏の高温乾燥による影響の実態

近年は気候変動による作物への影響が大きな問題となっている。高温による障害ではイネの乳白米、果樹の日焼け果、着色不良果などがよく知られるが、サツマイモでもさまざまな影響が見られるようになってきた。特に夏の高温乾燥の長期化によって問題になっているのが、丸いも、空洞症などの生理障害である。加えて、収量低下も指摘されている。

そこで本書では、夏季の気温と地温の上昇によるサツマイモの生育や収量への影響を収録した。それによると、収量は1898年

から2005年にかけて増加傾向で、2006年から2024年まで低下傾向であり、2005年までは気温が平年値より高いほど収量が高くなったが、2006年以降は気温が平年値より高いほど収量が低くなる傾向だった。近年の夏季の高温は全国的なサツマイモ収量低下の一要因であることがわかる。

また、生理障害では、その原因と対策のまとめを収録したほか、産地での対応技術として緑肥の活用を収録した。この関東の産地では、形状のよいものの割合を示すA品率の低下が大きな問題となっており（とくにベニアズマ）、産地の土壌とA品率の関係を調べたところ、土壌炭素含量の低下と可給態チツソの減少がA品率低下の一因だったという。産地では緑肥をすき込むことで地力が高まり、サツマイモの収量と品質が向上したとのこと。今の高温乾燥に挑むには根本的に土壌管理から見直すことも必要であることがわかる。

## 産地の土壌病害とのつきあい方

いも産地ではこの間、土壌病害による被害も甚大だった。2018年にはサツマイモ基腐病、2015年にはサトイモ疫病。サツマイモでは現在、茎根腐細菌病が問題となっている。

本書では、サツマイモ基腐病、サトイモ疫病の原因と対策を収録した。さらに、いも残渣の分解による病害防除も取り上げた。産地ではよく圃場周辺にいもが放置されることがあるが、これらは毎年発芽して菌を保菌し続ける。サトイモなら疫病菌を、サツマイモならサツマイモ基腐病菌などを保菌したまま越冬し伝染を拡げる。残渣の処分方法ではふつう、「圃場外に持ち出し

て、適切に処分する」といわれるが、すべてを持ち出すことは容易ではない。そこで、水溶解度が高く作物残渣の中心まで取り込まれやすい薬剤キルパーを使った「古株枯死」や、多回数のロータリ耕起、分解促進のための微生物資材を使った土壌混和などを組み合わせると残渣が早く分解され、防除効果が高まるという。こうした産地の土壌病害とのリアルなつきあい方もわかる。

もちろん本書ではサツマイモ、サトイモの来歴、育種の歴史、消費の変遷なども載せている。時代に合わせて変化してきた生産の歴史をたどりながら、これからのサツマイモやサトイモの生産の未来を展望する一助になれば幸いである。

写真解説

B5判上製852ページ(うちカラー口絵28ページ)  
税込24,200円

【特別注文窓口】

下記のQRコード、あるいは下記メール、電話でのお申し込みで、対象書籍が1割引になります(送料660円もサービス)。注:受付締切2026年5月末

メール: nbk-bookorder@mail.ruralnet.or.jp  
TEL: 048-233-9344 (担当: 阿部)



#### □寄稿のお願い□

一般財団法人いも類振興会では、サツマイモ、ジャガイモなどいも類の振興と消費拡大を図る一助として、「いも類振興情報」(季刊)を発行しています。いも類に関する総説、調査・研究、産地・業界情報、海外情報、商品情報、料理、文化などの寄稿をお願いします。原稿の執筆要領は、下記のとおりです。

1. 原稿はパソコンのワープロ・ソフトを用いて作成し、E-mailの添付ファイルで当方まで送付下さい。なお、手書き原稿でもかまいません。
2. 編集の都合上、OSはWindows、使用ソフトは次のものを使用下さい。本文はWord(一太郎、テキストも可)。図表などはWord、Excel、PowerPoint。
3. 掲載1回分の頁数(1頁で約1,200字)は、図表・写真を含めて概ね6頁以内となります。
4. 編集の都合上、原稿の一部を割愛、修正する場合がありますので、予めご了承下さい。掲載原稿には、規定の原稿料と掲載誌を若干部お送りします。
5. 原稿の送付先

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303 一般財団法人いも類振興会  
E-mail: jrta@imoshin.or.jp TEL: 03-3588-1040 FAX: 03-3588-1225